

★仏前勤行次第 ※通常お勤めは赤字部及び般若心経を唱えます。「頭」は「経頭」が最初に唱え、「助」よりそれ以外の人が唱えます。

合掌、礼拝 恭しくみほとけを 礼拝したてまつる

奉納経祈願文

奉納 此所 御本尊高祖弘法大師 諸天善神 鎮守護法 惣 日本大小 神祇等祈願 奉

天下泰平 萬民快樂 家内安全 現世安穩 父母師長 六親眷屬 乃至法界 平等利益

開経偈 無上甚深微妙の法は百千萬劫にも遭ひ遇ふことかたしわれいまい見聞し 受持することを得たり 願くは如来の眞實義

を解したてまつらん

一遍頭 無上甚深微妙法 助百千萬劫難遭遇 我今見聞得受持 願解如来眞實義

懺悔文 無始よりこのかた 貧瞋痴の煩惱にまつわれて 身と口と意とに造るところの もろもろの つみとがを みな 悉く懺悔

したてまつる

一遍頭 我昔所造諸悪業 助皆由無始貧瞋痴 從身語意之所生 一切我今皆懺悔

二歸 一遍又は三遍頭 弟子某甲 盡未來際 助歸依佛 歸依法 歸依僧

一遍又は三遍頭 弟子某甲 盡未來際 助歸依佛 歸依法 歸依僧

三竟 此の身今生より 未來際をつくすまで 三寶に歸依し 奉り ことしなえに かわることなからん

一遍又は三遍頭 弟子某甲 盡未來際 助歸依佛 竟 歸依法 竟 歸依僧 竟

十善戒 此の身今生より 未來際をつくすまで 十善のみをしえを守りたてまつらん

一遍又は三遍頭 弟子某甲 盡未來際 助不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語 不綺語

發菩提心 白淨の信心を發して 無上の菩提を求む 願くは自他もろともに 佛の道を悟りて 生死の海を渡り

一遍又は三遍頭 弟子某甲 盡未來際 助不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語 不綺語

三摩邪戒 われらはみほとけの子なり ひとえに如来大悲の本誓を仰いで 不二の淨心に安住し 菩薩利他の行業を励みて

三遍 おんぼうじ したた ぼだはだやみ

般若心経は 佛敎の精要 蜜蔵の肝心なりこのゆえに誦持講供すれば苦を抜き樂を與へ 修習思惟すれば道を

得 通を起す まことこれ世間の闇を照らす 明燈にして生死の海を渡す 船筏なり 深く鑽仰し至心に読誦し

たてまつる

法身の慧命を相續したてまつらん 三遍 おん さんまや さとぼん

たてまつる

たてまつる

御本尊御真言 三遍 札所により御本尊が異なります。本堂の賽銭箱近くに御真言が表記されております。

不動明王 のうまくさんまんだ ばざらだん せんだ まかろしやだ そわたや うん たらた かんまん
釈迦如来 のうまく さんまんだ ぼだなん ばく 文殊菩薩 おん あらはしや のう
普賢菩薩 おん さんまや さとばん 地藏菩薩 おん かかかび さんまえい そわか
弥勒菩薩 おん まい たれいや そわか 薬師如来 おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
観音菩薩 おん ありりきや そわか 勢至菩薩 おん さんさん さんさく そわか
阿弥陀如来 おん あみりた ていせい からうん 阿閼如来 おん あきしゅびや うん
大日如来 おん あびらうんけん ばざらだとばん
虚空蔵菩薩 のうぼう あきやしやきやらばや おん あり きやまり ぼり そわか 以上十三仏御真言
十一面観音 おん まか きやろにきや そわか 十一面千手観音 おん ぼざらたらま きりく そわか
大通智勝仏(五十五番) なむ だいつう ちしようぶつ
毘沙聞天(六十三番) おん べいしらまんだや そわか
聖観音(六十九・八十三・八十五・八十七番) おん ありりきや そわか
馬頭観音(七十番) おん あみりとどはんば うんばつた そわか

光明真言 となえたてまつる光明真言は 大日普門の萬徳を二十三字に攝めたり おのれを空しうして 一心となえたてまつれば

みほとけの光明にてらされて 三妄の霧おのずから晴れ 淨心の玉明かにして 眞如の月まごかならん
おん あほきや べいろしやのう まかほだら ま に ほんどま じんばら はらぼりたや うん
三遍 頭 帰命 不空 光明遍照 助大印相 摩尼宝珠 蓮華 焰光 転 大誓願
なむだいしへんじようこんごう
御宝号 三遍又は七遍 南無大師遍照金剛
震災願文 一遍 心身安穩 復興成満 廻向震災 物故之精霊

廻向文 願くは 助この功德をもつてあまねく一切に及ぼしわれらと衆生とみなともに佛道を成ぜん

願以此功德 助普及於一切 我等與衆生 皆共成佛道

祈願、合掌 ありがとうございます

★『般若心経』解説と現代語訳

四国八十八ヶ所霊場 第二十二番札所 平等寺 副住職 谷口真梁師

本経は「般若波羅蜜多」という名の「真言」を説いたお経です。真言とは祈りの言葉であつて、適切な方法で祈ることによつて功德が得られる確かで偽りの無い言葉です。よく知られたお経であるため内容も入門的なものと思われがちですが、決して世俗的な知恵を説いたものではありません。本稿は一頁という制約があるため、全体の流れを掴んでいただくことだけに焦点をあてて現代語訳しました。「空」や「色」や「般若波羅蜜多」といった専門用語はそのままだ用いていますので、仔細は明師にお尋ねください。難しい言葉は難しそのまま理解するのが一番の近道です。

偉大なる「般若波羅蜜多の心真言」を説いたお経「現代語訳」 観自在菩薩は深遠な「般若波羅蜜多」という名の修行を実践し、自己は「五蘊」の集合体ではないことを観察し(無我の境地)、さらにその「五蘊」も「空」であると見極め(大乘仏教・空の境地)、あらゆる苦しみを鎮めました。舍利子さん、この空の境地からすると「五蘊」の一つである「色」は「空」であり、残りの「受・想・行・識」も「空」です。舍利子さん、あらゆるものは「空」を特徴としており、それゆえにあらゆるものは「生じる」こともなく「滅する」こともなく、「汚れる」こともなく「汚れを離れる」こともなく、「足りなくなる」こともなく「満たされる」こともありません。このように空の境地に立てば「五蘊」や「十八界」は全てありません。「無明」から「老死」までの「十二縁起」も無いし、「苦・集・滅・道」の「四諦」も無く、「八正道」の結果の「智」もありません。

このように空の境地に立てばすべてのものが無いので、菩薩たちは空の境地に立つことが出来る「般若波羅蜜多」のおかげで心を覆うものが無い状態になっています。心を覆うものが無い(心それ自体も無い)ので恐怖も無いし誤った見解から離れることができ、自由の境地に安住しています。過去・現在・未来のすべての仏たちはこの「般若波羅蜜多」によつて「悟り」を成就してきましたしこれからも成就するのです。そのため舍利子さんも「般若波羅蜜多」を知ってください。それは大いなる真言であり、大いなる明知の真言であり、これ以上ない真言であり、比較の対象すら無い真言です。あらゆる苦しみを鎮める、確か偽りのない言葉です。「般若波羅蜜多の心真言」を説き終えました。

それはすなわち、「羯諦羯諦、波羅羯諦、波羅僧羯諦、菩提薩婆訶」です。「般若波羅蜜多の心真言」を説き終えました。 ※右記の訳は、梵本や各種漢訳本を参照したため、普段用いている『般若心経』とは表現が異なる箇所がございます。